

# サンガ小倉

2019年  
夏号

令和元年  
6月発行

## 桃太郎

善龍寺住職 前田 彰道



むかしの話です。

あるお寺のご住職様が、一日の法務を終え、晚酌をしながら夕ご飯をいただいていたところに、電話がなりました。

坊守様が電話に出ますと、ご

門徒のお爺ちゃんが亡くなられたとのこと。ご住職様は少々お酒が入つていましたが、早速支度をして臨終のおつとめに参りました。

少々お酒が入つてることを

ました。

おつとめが終わり、後ろに向き直りお話を始めました。

「むかしむかしあるところに、お爺さんとお婆さんが住んでいました。お爺さんは山に柴

刈に、お婆さんは川に洗濯に出かけました。お婆さんが川で洗濯をしていると、大きな桃がどんどんぶらこぐどんぶらこぐと流れ出てきました」と。そう、「桃太郎」の話です。(中略)「桃太郎は鬼に取られた財宝を村人たちに返し、みんな仲良く暮らしましたとき話すと、「明日またお通夜に参らせていただきます」と

いって帰られたそうです。

ご家族の方々は、「ご住職さん

はお酒が入つて酔っぱらつていたのかなあ」と思つたそうです。

後日、ご家族の方が、なぜ「桃

太郎」の話をされたのか伺いま

すと、ご住職さんが仰るには、「物語の登場人物は、お爺さん、

お婆さん、桃太郎さん、犬、猿、キ

ジ、それと鬼。皆さんはこの話を

子や孫にする時、また自分が聞

いた時、登場人物の誰になつて

話したり聞いたりしていました

か? 退治する側、退治される側

どちらの立場でしたか?」

「退治される側の鬼は、腹黒い貪欲の心を表す『黒鬼』、真っ赤な顔で瞋恚の心を表す『赤鬼』、妬みで青ざめた愚癡の心を表す

『青鬼』。三色の鬼は『三毒の煩惱』なのです

「かたや退治する方は、阿弥陀

様の『智・情・意』を表す猿(猿智慧)・犬(恩情)・キジ(強い意志)で三毒の煩惱(鬼)を退治するのです

「仏様の智慧で愚癡の心を納め、仏様の情で瞋恚の心を納め

佛様の意で貪欲の心を納める。このお話は仏教童話なんですよ」とのお話でした。

仏様の意で貪欲の心を納める。このお話は仏教童話なんですよ」とのお話でした。

桃太郎侍が悪徳代官や悪徳商人を退治するのですが、斬りつけの時に発する言葉が、「一つ、人の世、生き血をすすり、二つ、不埒な悪行三昧、三つ、醜い浮世の鬼を退治てくれよう桃太郎」と言つて退治していました。

その時も、私は退治する側の桃太郎でした。しかし、実は退治される側の鬼であり悪徳商人であります。

皆さんは、どっちでしようか?

見当違いも甚だしいことです。

煩惱にまなざえられて

攝取の光明みざれども大悲ものうきことなくて

つねにわが身をてらすなり

称名